

オルトートルイジンに対して
化学防護手袋を使用する上でのQ&A

2016年12月16日
日本防護手袋研究会

この資料は、オルトートルイジンを扱う作業で化学防護手袋を使用する上でのQ&A集です。

Q 1 使用した手袋は、使用可能時間内なら翌日も使用できますか？

A 1 付着した化学物質は透過が進行し続けるため、使用した時間とその後の使用しない時間も含めて使用可能時間内で交換してください。

Q 2 用具等を使用し、オルトートルイジンに接触しなければ、使用可能時間（耐透過性）を超えて使用できますか？

A 2 直接オルトートルイジンに接触しなくとも飛沫などが付着する可能性があります。化学防護手袋が使用可能時間に達したときは新しい化学防護手袋に交換してください。

Q 3 オルトートルイジンと他の溶剤（トルエン等）が混合した材料の使用可能時間はどのように判断したらよいのでしょうか？

A 3 オルトートルイジンが、他の化学物質と混合されたものを取り扱う場合は、他の化学物質に対する耐透過性についても考慮する必要があります。

化学物質に対する使用可能時間（耐透過性）については、製造業者・販売業者にお問い合わせください。

Q 4 乾かせば使用できますか。乾けば溶剤が揮発するので良いのではないのでしょうか？

A 4 手袋の内部に侵入している化学物質は、表面が乾いても残っているおそれがあります。一度使用した化学防護手袋は再使用しないで下さい。

Q 5 耐浸透性のクラスと品質許容水準について教えてください？

A 5 JIS T 8116 では、化学防護手袋の耐浸透性を、水を手袋に入れてピンホールを確認する水密試験で、評価することを規定しています。

製品のロットごとの不良率（AQL）を、表1のクラスで区分しています。数字が小さいほどより多くの抜取数で検査しています。

表1 耐浸透性の分類

クラス	品質許容水準（AQL）
4	4. 0
3	2. 5
2	1. 5
1	0. 6 5

Q 6 保管する際の注意事項について教えてください？

A 6 保管する際は、次に留意する必要があります。

- ① 直射日光を避けて下さい。
- ② 高温多湿を避け、冷暗所に保管して下さい。
- ③ オゾンを発生する機器（モーター類、殺菌灯等）の近くに保管しないで下さい。

Q 7 オルトートルイジンを扱う作業で使用する化学防護手袋を選定する際に製造業者・販売業者にどのような情報を伝えたらよいでしょうか？

A 7 次の内容をお知らせください。

- ① 使われている溶液の組成（オルトートルイジンの濃度、一緒に使用している溶媒等の化学物質名、CAS 番号）
- ② 作業内容（手袋で溶液をどのように扱っているか）
- ③ 作業時間

Q 8 JIS 規格に適合していないものでも使用できるでしょうか？

A 8 JIS T 8116 に適合している化学防護手袋をご使用ください。ただし、ASTM F739 に適合しているものは JIS T 8116 と同等の耐透過性能を有しています。

Q 9 オルトートルイジンが付着したら色が変わる等、目視あるいは紫外光を当てればわかるような製品がありますか。あるいは手袋が破過していることを確認できる方法がありますか？

A 9 現在、オルトートルイジンが付着していることや破過していることを確認できる簡単な方法はありません。

Q10 使用前に確認しなければならないことは何ですか？

A10 使用前に、傷、孔あき、亀裂等の外観上の問題が無いことを確認すると共に、手袋の内側に空気を吹き込んで空気が抜けないことを確認して下さい。また、作業員に対して皮膚アレルギーの無いことを確認してください。

Q11 化学防護手袋を脱ぐときに注意することはありますか？

A11 手袋を脱ぐ時は、付着しているオルトートルイジン等が、身体に付着しないよう注意して下さい。オルトートルイジンが付着した面が内側に来るように脱いでください。

Q12 使用済みの化学防護手袋はどのように廃棄すればよいですか？

A12 廃棄する際は、取り扱った化学物質のSDS、法令等に従って下さい。

以上